

# 2023年3月27日 日本テレビ 定例記者会見

## 《 要旨 》

### 1. 営業状況

#### ・ 放送収入

2月はタイムが苦戦した。前年北京オリンピックがあり、収入の差が出ている。スポットについては前年比100%を超えている。

新年度はコロナが第5類相当に移行することを含め、インバウンド含めた消費行動が活発・活性化し、広告主の意向意欲が高まることを期待したい。

#### ・ 放送外収入

「ルーヴル美術館展 愛を描く」は、日時指定入場している中で1日平均4500人入っており、先週の土曜日は6400人を達成し、大好評である。

舞台「巖流島」は本日博多座で千秋楽を迎え、全チケット完売と良い形で終わられた。3月には羽生結弦選手と体操の内村航平選手のアイスショー「notte stellata」が仙台で行われ、床運動とスケートがうまくコラボし、良いショーとなった。

SKY-HIと日本テレビで行ったダンス&ボーカルイベント「D. U. N. K」も大盛況だった。3月になりコロナもひと段落し、リアルエンタメへの期待が高まっていると感じている。

櫻井翔さん、広瀬すずさん主演のドラマ発の映画「ネメシス」は今週末公開する。

新しいミュージカル「マチルダ」も始まり、子供達が非常にいきいきとした楽しいミュージカルとなっている。来月からは丸美屋食品ミュージカル「アニー」も始まる。

### 2. 24時間テレビ「トルコ・シリア大地震緊急募金」のご報告

トルコ・シリア大地震に対し、24時間テレビは3月15日まで緊急募金を実施し、全国からお預かりした寄付金総額は2385万2072円であったことをご報告する。

上記金額には、日本テレビ放送網からの寄付1000万円も含まれている。寄付金全額を、トルコ・シリア大地震の被災地へ日本赤十字社を通じてお届けする。

### 3. 質疑他

#### Q. 今年度の振り返りと新年度への抱負をについて

A. 視聴率について、今年度個人視聴率3冠王は現状厳しい状況。WBCの影響もあり、これを逆転して取り返していくのが新年度のテーマである。新年度はラグビーとバスケットの2つのワールドカップがあり、レギュラー番組以外に特番もしっかりとタイムテーブルで戦って、現状の逆転を図っていきたい。

事業面では、日本テレビグループの中期経営計画の初年度が今月締まる。重点項目は「コンテンツ価値の最大化」「新規ビジネスのチャレンジおよび加速化」「ウェルネス経済圏の構築」などを柱に立てた。

「コンテンツ価値の最大化」では、昨年の4月期「金田一少年の事件簿」がDisney+で日本発、世界へのコンテンツ配信ができた。GB局ではBE:FIRSTが放送・ネット・リアルイベントでそれぞれ成果をあげ、一世を風靡した。

「新規ビジネスのチャレンジ」では独立事業としてVTuber事業をスタートさ

せたほか、人材コンサルティング「アチーブメント社」とは業務提携を組み、社内の人材カリキュラムにも活用している。

「ウェルネス経済圏の構築」では、「アールビーズ」というランニングイベント企画の会社へ、アシックスと日本テレビで出資を行った。イベントとデータを合わせることで、ティップネスとの連携をはかり、より大きな形で、運動と関連するベネフィットを国民の皆さんへ届けていきたい。

この他、アナウンサーによるアパレル事業「Audire」にも力を入れている。中期経営計画がぶれることなく、テレビを中核とした、信頼される情報・感動を届けるNO. 1企業として、今後もしっかりと取り組んでいきたい。

#### Q. 4月改編について

A. 1月期はドラマが全て話題となったが、4月期も3本揃って話題にしていきたい。金曜24時半に「金曜ドラマDEEP」という新しい枠が始まる。この枠は人材育成ではなく、コンテンツファーストを掲げて、ビジネスを前提にした枠となる。

生活者動向の変化やニーズにお応えする為、朝帯の構造改革を断行した。NHK含め、各局朝8時に番組切り替えをする編成が長く続いていたが、日本テレビはコア層のフローや、テレビを見ていない層を取りこむべく、現行の「ZIP!」を1時間拡大し、8時切り替えをまたいでいく。この時間帯の視聴者ニーズに則って、新番組を立ち上げる覚悟で準備している。

17年間続いた「スッキリ」は終了し、9時から「DayDay」をスタートさせる。武田真一さん・山里亮太さん・黒田みゆアナウンサーの3MCで、ニュースから身近な話題まで扱う、情報エンタメトークショーとなる。

#### Q. 新番組「DayDay」MCの、元NHK武田アナウンサーについて

A. 武田アナウンサーはNHK時代に輝かしい経歴をお持ちで、紅白歌合戦の総合司会や、五輪開会式もロンドン・バンクーバーと2大会実況を担当され、申し分ない方をお迎えできた。

「スッキリ」でも力になって頂いた山里さんとはまた違うキャラクターで、それぞれの視点で情報をお届け頂けるのではないかと期待している。

#### Q. WBC・プロ野球開幕について

A. 一国民として、素晴らしいチーム・プレイヤーの集まりと見ていた。

少年野球の体験入団が増えていると聞いている。私の孫も急にキャッチボールを始めた。こういった社会現象で野球人口が増え、プロ野球を楽しむファンも増えることを期待し、その期待には中継でお応えしていきたい。

日本の完全優勝という最高の形で終わられた。中継番組のみならず、ニュース・情報番組など、関連枠含め高視聴率を獲得された。年間視聴率競争は3か月経過したところで1位局には出遅れているが、4月からの改編を必ず成功させたい。

WBCの波及効果は必ずあるので、プロ野球中継に力を入れ、この勢いをペナントレースに持ち込み、精一杯盛り上げたい。

今回のWBCはドリームチームで劇的な試合をし、最高な終わり方をされた。テレビ中継でお伝え出来たことは我々も嬉しく思っている。これを機に、プロ野球全体を盛り上げたい。

## Q. プロ野球中継の新しい企画について

A. 去年、野球中継で初めて導入した「ポリュメトリックビデオ」を、今シーズンは東京ドームに常設し、巨人戦全試合で活用していく。98台の専用カメラを使って、3秒後には自由視点で3D映像化するので、例えばピッチャーが投げた変化球の軌道など、面白いものが見せられるのではないかと考えている。

他、審判団にご協力頂き、塁審カメラは従来の一塁・二塁・三塁に加え、新たに球審にもカメラをつけてもらえることになった。

今シーズンより声だし応援が戻ってくるので、臨場感を体感できるような「シネカメラ」も導入する予定で準備している。

## Q. 放送法について

A. 本件詳細について、評価等コメントはこの場においては控えさせて頂きたい。一般論的に、我々放送事業者としては、放送法の定めとその精神に則り、国民の知る権利に正しく応える不断の努力を積み重ねている。

これまでどおり放送法を順守して自主的、自律的に放送する姿勢を貫いてゆくことに尽きると考えます。番組審議会・BPOが十分に機能していると考えている。

しっかりとコンテンツを出していく観点から、視聴者がどのように感じるかを受け止めながら、放送局として公平性を追求し、お伝えしていきたい。

## Q. 「スッキリ」放送時、ペンギンの池への出演者落下について

A. 日本テレビのホームページ、また今朝の「スッキリ」の放送で、経緯について説明を行ったが、なぜ起きたのか、ということについては、制作スタッフと出演者の間で事前の打ち合わせが不十分であった。また、動物に対する配慮が欠けた中継となり、その結果、動物園の方々、出演者の方々にご迷惑をかけ、視聴者に不快な思いをさせてしまった。率直にお詫びをしたい。

今後の対策については、社内各現場で、今回の状況を共有し、次に生かすべく協議を進めている。より一層、動物の安全面・衛生面を踏まえ、配慮をして番組制作に取り組んでいきたい。

日本動物園水族館協会の声明文については重く受け止め、再発防止に取り組んでいく。動物園側には直接謝罪に伺っている。

## Q. 水ト麻美アナウンサーの結婚について

A. 大変驚いた。今朝の「ZIP!」でも照れながらも爽やかに進行していた。番組最後にお相手の中村倫也さんも出演され、この上なく幸せそうで、今後のお二人の活躍を期待し、末永く幸せにと祈念している。

水トより、記者の皆様にはメッセージを預かっている。

『温かく祝福してくださる記事にとっても感激し、中村ともども本当に喜んでます。記者の皆様には「ありがとうございました」と必ず伝えて下さい。WEB記事は全てスクショを撮り、紙の記事はスクラップにして、一生大事にします。』

今朝の中村さんの「ZIP!」出演には驚いており、昨日、中村さんから「ZIP!」でお世話になっているスタッフの皆様へ、お礼とご挨拶がしたいと言われ、朝早くから差し入れを持参し来社されたが、番組側から最後に少し出演して頂けないか提案したところ、快く受けて下さった。

水トも、うまく喋れず困ったところを中村さんにフォローしてもらい、改めて頼り

になる人と感じたと話していた。

水トからは少し前に報告を受け、中村さんから直接お電話頂いた。とても誠実で、礼儀正しく、この人だったら間違いはないと感じた。

#### Q. 選挙報道について

A. 国政選挙や統一地方選の時期になると、事前にコンプライアンス推進室発で、政治的公平性と、放送法が定める目的等、情報発信を行っている。ローカル局に対してもネットワークの会議等を通じて確認を行い、選挙報道に臨んでいる。

事前に候補者になりそうな人の情報共有や、レギュラー番組への採用・登用、あるいはゲストにおいても、過去の映画コンテンツについてまで、放送から外すかどうか、指差し確認をしている。放送局としての一致した考え方として、ネットワーク全体で取り組んでいる。

#### Q. 5月から休職する岩本アナウンサーについて

A. キャリアサポート制度を使って休職するが、制度の目的にかなった利用と承知している。岩本アナウンサーは阪神大震災を経験し、「news zero」でも問題意識を持って現場の取材をしていた。キャスターとしての視野を広げたいと考えており、また配偶者の転勤帯同による休職で、その期間に勉学を積むということなので、こうした努力や姿勢を応援したい。

#### Q. 70年NHKコラボについて

A. NHKとのコラボは開局60年、65年の時に続き、今回3回目となった。お互いの役割分担が進化し、過去最大規模のコラボができた。

特に日曜午後7時の「ダーウィンが来た!」と「ザ!鉄腕!DASH!!」は真裏で、柁太一さんが両方に出演し、通常であればご法度だが、志や目指すところは同じため、そのような取り組みも出来た。

ローカル局単位では、北海道や熊本など地元民放とNHKがコラボ展開をしている。テレビ局が一致団結して、いいものをそれぞれの役割・特性に従って補完し合い、協力して作るというのは、良いものと思っている。

(了)

石澤 顕	代表取締役 社長執行役員
福田 博之	取締役 常務執行役員
於保 浩之	取締役 常務執行役員
沢 桂一	取締役 執行役員